

めざめ

第48集

町内学習懇談会 推進者向け資料

[進め方の一例]

本冊子は、めざめ第48集を使って、町内学習懇談会を進める際の進め方の一例として、実際の懇談会を進めるうえで、各ワークシートごとに進め方の参考となるよう作成しています。進め方の一例として、参考にしてください。

本書の進め方の中には、議論の中で偏見や差別を信じる立場としてロールプレイを行うものがあります。あくまで、発言者個人ではなく、懇談会の中で演じるだけの意見として参加者間の情報共有をはかってください。

ワークシート1「言えませんでした」(4・5ページ)

進め方の参考例

(1)はじめに

○今日の懇談会のねらいの確認

今日は、【めざめ】の資料を使って参加者のみなさんと共に、「わたしたちの周りにある偏見・決めつけ・差別」に立ち止まって考えていきます。

今日の懇談会は、「社会の中にある決めつけや偏見をなくすことが、誰もが安心して自分らしく生きることにつながること」、「人々の無関心や偏見が差別を広げていることをみなさんと一緒に考えていきます。どうぞよろしくお願ひします。

(2)懇談

○活動1 2つの資料から考える

それでは、プリント【資料1】を配ります。自分は「そう思うか」、「そう思わないか」を5つの場面で考えていきましょう。

① それでは、①から⑤を読んで、自分の気持ちにあてはまる方に○をつけてください。

*各自で、または誰かが読み上げて一斉に○をつける。

② どちらに○をつけたのか、なぜ、そちらにつけたのか、話し合ってみましょう。

次に、プリント【資料2】を配ります。言えない人の気持ちや、なぜ言えないのかを考えながら読んでみましょう。

① それでは、お願ひします。

*3つ全部読む、または、どれかひとつを読む。

② プリント【資料1】にもどってください。その中で質問に「はい」と答えた人がいるしたら、その理由を考えてみましょう。

*「はい」と答える背景には、差別があることに気づいてほしいです。

○活動2 ワークシート1から、気づいたことや考えたことを話し合う。

次に、【めざめ】のワークシートを使って考えていきます。ワークシート1をご覧ください。ここに2つの4コマ漫画があります。

- ① 2つの4コマ漫画を見て感じたことはありませんでしたか？
- ② 同じような場面を見聞きした、また、経験をしたことはなかったでしょうか。どうですか？
- ③ ワークシート1の中に書いてある「言えないのはなぜ」「考えてみよう」を読んだ感想を交流しましょう。

*①…【わたしの住所は△△です】で、「なぜ、気をつけた方がいい」と言ったのか、「そ
うかなあ」「もう少し向こうだけど」と言葉を返したのかその理由や気持ちを考
えたい。

【わたしの性別は女性です】で、アンケート用紙の問題点、それを書くことをちゅ
うちよする登場人物の気持ちを考えたい。

*②…言いたくないことは無理に言わなくてもいいということを確認しておく。

*③…一言ずつでも感想を言いあい、そこから話が広がればいい。

○活動3 ふりかえり(感想の記入)

*時間があれば、2、3人の参加者から発表してもらう。

(3)まとめ方の例

身元を調べ、それによって就職や結婚、そして子どもの誕生日会にまで差別を持ち込むのが部落差別です。しかし、自分を明らかにすることで差別を受ける、それは部落差別だけではありません。あらゆる差別に共通することです。自分の不安を解消する、自分の心を安定させるために、人を見下げたり周りに同調したりすることが、『差別の根っこ』です。LGBTQ+の方が学校や職場でカミングアウトしにくい。在日韓国朝鮮人の方が本名ではなく通名で生活する。アイヌの人たちが自分の出身を隠す。ハンセン病元患者が自分の病気を言えないという現実があります。なぜ、言いにくいのか。

「言えないの」は、個人の責任ではありません。そうしなければ対等な人として接してもらえない社会のあり様、あり方の問題であり、この社会に差別があるからです。

わたしたちは、部落差別をはじめとする様々な人権問題について積極的に学び、正しく判断し、差別を許さない行動に結びつけることが必要ですね。

本日はどうもありがとうございました。お気をつけてお帰り下さい。

【ワークシート1・資料1】

★ あなたはどうですか？あてはまる方に○をつけましょう

① 「どこに住んでいるの？」と聞かれたら、返答に迷ったり、ドキドキしたりすることがある。

(・はい・いいえ)

② 自分の性別を言うことにためらうことがある。

(・はい・いいえ)

③ 自分が通っている(通っていた)学校を言えないことがある。

(・はい・いいえ)

④ 自分や親の仕事を言えないことがある。

(・はい・いいえ)

⑤ 自分の出身を明かすと、友達付き合いや就職、結婚が断られるかもしれないと思うことがある。

(・はい・いいえ)

☆みんなさんは、5つの質問にどう答えましたか？「はい」と答えた人がいるとしたら、それはなぜなのか、考えてみましょう。



【ワークシート1・資料2】市民の声から

「どこに住んでいるの？」とか「出身はどこなん？」という言葉は、誰でも何気ない会話の中に出でてきた経験があると思います。尋ねられて、わたしが地域名を答えたとき…。相手の表情や視線、声の調子で心の意識に気が付くことがあります。

その意識…差別意識にわたしは悲しくなるし、ショックも受けます。裏切られた気持ちにもなります。

みなさんは、自分自身の言った一言が、相手を不安にさせたり、傷つけているかもしれないと考えてみたことがありますか？

そこを考えてみてほしいのです。

(被差別部落のお母さんの言葉)

「あなたの性別は何ですか？」そう聞かれた時、みなさんはどう答えますか？体が男だから男、体が女だから女。世の中にはそう答える人もいれば、違う答えを持つ人もいます。よくわからない、決められない、単純に答えることが難しいと感じる人もいるのです。

今の社会では、体の性別と異なる答えを口にするのは、まだ容易なことではありません。信じてもらえないことがあります。好奇な目で見られることもあります。でも、自分にうそをつかないで生きていくこともできます。

わたしたちは学校、職場、地域社会の中で、わたしたちはすでにみなさんと一緒に生きてています。

(トランスジェンダーの方の言葉)

わたしの子どもが通っている学校(朝鮮中高級学校)の先輩がバイトの面接を行ったんです。最初は、いい雰囲気で面接が進んでいたのですが、店長の「高校はどこですか？」質問に「朝鮮学校です」と答えたとき、一瞬店長の顔が変わったそうです。「そうですか……」の言葉のあと、「また、連絡しますので…」の言葉で面接は終わつたんですが、その後連絡はありませんでした。朝鮮学校が大好きな子です。でも、今後自分の学校を言えるだろうか？その子の心の傷や将来のことを考えると、怒りや悲しさがこみ上げてきます。

(朝鮮学校に子どもを通わせている親の言葉)

ワークシート2「そっとしておけばいいのに」(6・7ページ)

進め方の例

(1)はじめに

○今日の懇談会のねらいの確認

今日は、【めざめ】の資料を使って、参加者のみなさんと共に「差別を解決するために必要だと思うこと」を立ち止まって考えていきます。

今日の懇談会のねらいは、「差別をなくすために必要なこと、自分にできること」を考えて交流することです。どうぞよろしくお願ひします。

(2)懇談

○活動1 『「人権・同和問題』に関する市民意識調査』から考える

それでは、プリント(資料1)を配ります。これは、2年前に実施した「人権・同和問題に関する市民意識調査」の中の質問のひとつです。

- ① 同和問題(部落差別)を解決するために必要だと思うこと、3つ選んで○をつけましょう。
- ② その項目に○を付けた理由を交流しましょう。
- ③ 市民意識調査の結果を見て、感じたこと・考えたことを話し合いましょう。

○活動2 あなただったら

次のプリント(資料2)を配ります。ここには2つの違った意見が書いてあります。

- ① 2つのグループに分かれてください。「人権学習はせずに、そっとしておいたらいいというグループ」と「人権学習は大事だというグループ」です。それぞれのグループが、相手のグループを説得する意見を相談して箱に書いてください。
- ② 考えた意見を発表しましょう、相手のグループの意見に対して質問や意見を言って話し合いましょう。

③ 自分は、どちらのグループの意見がよかつたか、なぜそう思ったか話し合いましょう。

*①…「そつとしておくグループ」と「学習が大事グループ」に分かれて、相手を納得させる理由を考える。相手のグループの意見も予想して反論も考える。

*②…ロールプレイであり、相手の意見の尊重に努め、相手側を非難しないように、話し合いを進める。

○活動3 思いを確かめよう

プリント(資料3)を配ります。プリントを読んで、感じたことや知ったこと、自分と重ねたことなど、感想を交流しましょう。

○活動4 【めざめ】のワークシートから考える

ワークシート2を見て、気づいたこと考えたことを話し合いましょう。

①【そつとしておけばいいのに】を読んで、二人の会話の中で気になったことはありませんでしたか。

②【考えてみましょう】から、差別をなくすために大切だと思ったことを交流しましょう。

○活動5 ふりかえり(感想の記入)

(3)まとめ

部落差別について、意識調査では約半数の人が「騒ぎすぎだ、そつとしておいた方がいい」と回答しています。しかし、そつとしておいても差別はなくなりません。わたしたちの周りには差別に合う機会はたくさんあります。誰かから聞いた、SNSで知ったなどの不確かな情報や、偏見に満ちた噂などから「被差別部落は怖い」などとマイナスからの出会いをしている人も多くいます。

だから、町内学習懇談会などあらゆる機会を通して、正しく学び続けなければなりません。豊かな感性を磨き、人権感覚をアップデートしていくことが大切ですね。

本日はどうもありがとうございました。お気をつけてお帰り下さい。

【ワークシート2・資料1-1】

★ あなたは同和問題(部落差別)を解決するためにどのようなことが必要だと思いますか？特に必要だと思うものを3つまで選び、○をつけてください。

- ①差別を許さない法制度を整備をする。()
- ②インターネット上の部落差別を規制する。()
- ③差別意識をなくすための同和教育を徹底する。()
- ④人権尊重についての学校教育を徹底する。()
- ⑤人権尊重の地域社会を創るための市民活動を支援する。()
- ⑥被差別部落の人々と被差別部落外の人々との協働・交流を促進する。()
- ⑦被差別部落にある社会福祉施設の共同利用を促進する。()
- ⑧被差別部落の人々が、一定の地域にかたまって住まないで、分散して住むようにする。()
- ⑨部落差別のことは口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなるので特に何もしない。()

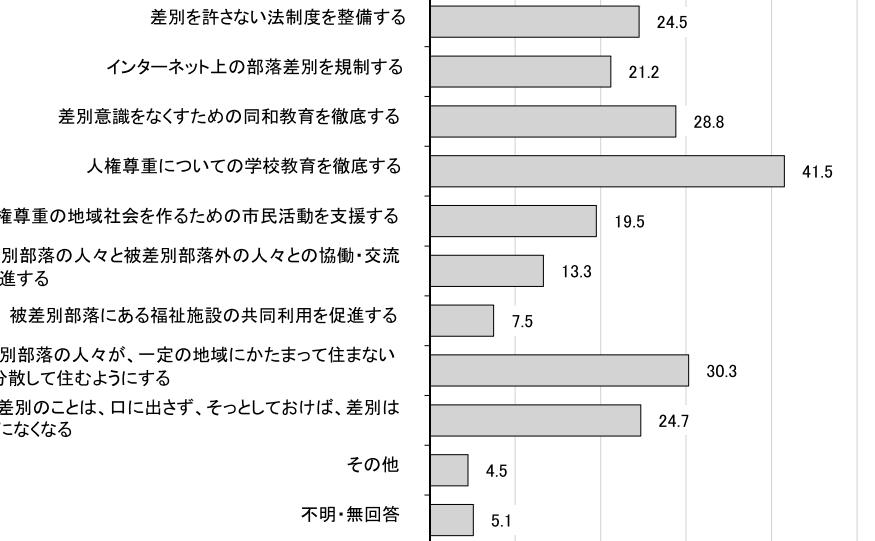
*なぜ、そこに○をつけたのですか？

【ワークシート2・資料1-2】

【令和5年度 人権・同和問題に関する市民意識調査の質問の結果】

質問 22. あなたは、同和問題(部落差別)を解決するためにどのようなことが必要だと思いますか？特に必要だと思うものを3つまで選び、○をつけてください。

全体(n=1,023)



【ワークシート2・資料2】

・差別、差別と騒ぎすぎ。部落差別のことは言わないほうがいいと思います。



自分の意識、感覚を高めるために、人権学習はやり続けることが大事だと思います。

なぜなら、

なぜなら、

【ワークシート2・資料3】市民の声から

学習会で同和問題と聞くと、「また同和問題か！もういいやろ！！」「いつまでやってはんの？」、「差別、差別って騒ぎ過ぎだ」そんな声を聞くことがあります。わたしたちも、「こんなこと、いつまでやらなあかんのやろ」「差別はなくなるんやろうか……」と弱気になったり、しんどいと思うこともあります。

「差別なんてない！」「わたしには関係ない！」「そっとしといたら」。そういう人は、差別がある現実を見ようとしないだけ、そして、気づかないふりをしているだけ、差別があつてもないことにしているだけです。わたしは、差別の現実から逃げたくありません。

まちがった情報に惑わされず、正しく理解し、気づき行動を起こしていくこと。他人事とせず、目の前にある差別の現実に、自分がどう向き合っていくのかを自分自身に問い合わせていくことが大切だと思います。

子どもには、差別を受けてほしくない！ そして、何よりも自分の子どもが差別をするような人にはなってほしくない！！

わたしたち一人ひとりが考え、感じていかなければならぬことではないでしょうか。

(被差別部落のお母さんの言葉)

わたしたちの地域には懇談会というものがよくあります。

保育園や幼稚園、小学校、中学校の先生方やPTAの同推さんなどですが……。

そういうときによく感じることは、相手の「無関心さ」だったり、「自分には関係のないこと」……という姿勢です。「今は、たまたまここで教師をやっているから…」「今年は、たまたまPTAの役員を引き受けているから…」

毎年毎年、役員さんや教師が入れ替わり、相手が替わっても、しんどい思いをしながら「差別をなくしていきたい」と、同じことばっかり言い続けていくのは、やはり、やはり今もある部落差別と、子どもを出会わせたくない。一つでもその芽を摘んでおきたい。そんな親心があるからなのです。

みなさんにとて部落差別とは本当に他人事なんでしょうか？

(被差別部落のお母さんの言葉)

ワークシート3 「学べば気づくことがある」「学ぶとわかることがある」(8・9ページ)

進め方の例

(1)はじめに

○今日の懇談会のねらいの確認

今日は、【めざめ】の資料を使って、参加者のみなさんと共に「なぜ人権を学ぶのか」を立ち止まって考えていきます。

今日の懇談会のねらいは、「人権を学ぶ大切さを考え、学びの中で得られた情報や経験を交流することです。どうぞよろしくお願いします。

(2)懇談

○活動1 「人権・同和問題に関する市民意識調査」から考える

それでは、プリント(資料1)を配ります。これは、2年前に草津市で実施された「人権・同和問題に関する市民意識調査」の中の質問項目のひとつです。

① みなさんは、人権問題に関する学習のあり方について、どのようにお考えでしょうか？自分の考えに最も近い番号を1つ選び、○をつけて下さい。

*各自で○をつける

② みなさんはどこに○を付けましたか？

*発表する

次に、その調査結果(資料2)を配ります。結果は、「一応の理解を持っているつもりなので、学習する気はない」が一番多いという結果になりました。また、町内学習懇談会では、「参加したことがない」、参加したことがない理由は、知らなかった、「関心がない」という結果が出ました。

① なぜ、多くの人が「学習する気はない」「関心がない」と答えているのでしょうか。その理由を考えてみましょう。

*意見を交流する

○活動2 思いを確かめる

次に、昨年行われた町内学習懇談会で出た主な感想(資料3)を紹介します。

① 資料3の意見を読んでどう思われましたか？

*感想を交流する。

② 懇談会への参加者を増やす方法を話し合いましょう

*書かれた意見・感想をもとに懇談会への参加者を増やす方法で、いいアイデアはないでしょうか。

それでは、【めざめ】のワークシート3から、気づいたことや考えたことを交流しましょう。

① 2つの話の中で気になったことなどはありませんでしたか？また、なぜ、そう思ったのですか？

② 2つの話の中に出てくる「〇〇」には、それぞれどんな言葉が入ると思いますか？

③ 今まで、人権の学びを通して、新しく知ったことやよかったこと、新たに気付いたことなどはありませんでしたか？

*上の文章は、うわさや偏見、作り話など、根拠のないことが広がり差別を生むので、きちんと事実を確かめるために学びが大切だという内容です。

下の文章は、無関心や偏見、他人事意識が、差別に繋がっていくので、正しく学んで自分が持つ偏見や差別意識を打ち破ることが差別をなくすことにつながるという内容です。

【〇〇に入る言葉は、たとえば……】

上の文章では、「部落って怖い」らしい・「朝鮮人には特権がある」らしい・「LGBTQは病気」らしい・「外国人の犯罪集団が集まっている」らしいなどです。

下の文章では、「被差別部落の出身だ」・「家族に障害を持った人がいる」・「元ハンセン病患者だ」などです。

○活動4 ふりかえり(感想の記入)

(3)まとめ

わたしの周りに飛び交う数多くの情報。その中で、うわさや思い込みによる間違った情報が正しいこととして広がり差別が生まれる。また、情報が正しくても、人々が持つ偏見や差別意識がじゃまをして真実を正しい判断ができなくなり、差別し続けるという例があとを絶ちません。少し立ち止まって考えることができれば、おかしいと気づくことがたくさんあるはずです。

だから、町内学習懇談会などあらゆる機会を通して、正しく学び続けなければなりません。豊かな感性を磨き、人権感覚をアップデートしていくことが大切ですね。

本日はどうもありがとうございました。お気をつけてお帰り下さい。

【ワークシート3・資料1】

★ あなたはご自身の人権問題に関する学習のあり方について、どのように考えていますか。お考えに最も近い番号を1つだけ選び、○をつけてください。

- ① もっと学習したいと思う。()
- ② 一応の理解を持っているつもりなので、あまり学習する気はない。()
- ③ 自分には関係ないことなので、学習する気はない。()
- ④ わからない。()

★ 人権問題について理解を深められるよう「町内学習懇談会」を開いていますが、あなたは参加したことがありますか？

- ① 4回以上参加したことがある。()
- ② 2~3回参加したことがある。()
- ③ 1回だけ参加したことがある。()
- ④ 参加したことがない。()

★ 「町内学習懇談会」に参加したことがない理由は何ですか。主な理由として最も近いものを1つだけ選び、○をつけてください。

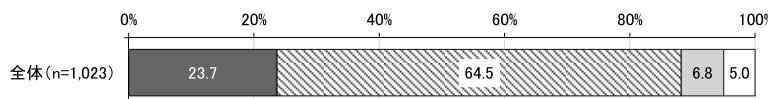
- ① 懇談会が開催されているのを知らなかった。()
- ② 関心がないから。()
- ③ 参加しても差別はなくならないと思ったから。()
- ④ 参加するまでもなく、よく知っているから。()
- ⑤ 仕事や家事の都合で参加できなかつたから。()
- ⑥ その他()

【ワークシート3・資料2】

【令和5年度 人権・同和問題に関する市民意識調査の質問の結果】

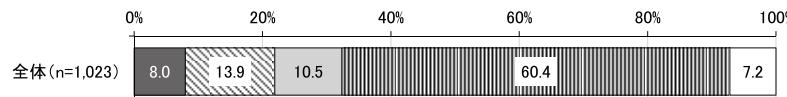
12 人権学習に関する考え方について

質問29. あなたは、ご自身の人権問題に関する学習のあり方について、どのように考えていますか。
お考えに最も近い番号を1つだけ選び、○をつけてください。



- もっと学習したいと思う
 - 一応の理解を持っているつもりなので、あまり学習する気はない
 - 自分には関係のないことなので、学習する気はない
 - 不明・無回答

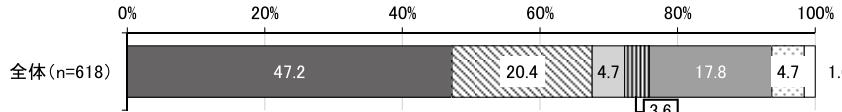
質問 25. 草津市では、市民の皆さん人が人権問題について理解を深められるよう「町内学習懇談会」を開いていますが、あなたは参加したことがありますか。
あてはまるものを 1 つだけ選び、○をつけてください。



- 4回以上参加したことがある 2~3回参加したことがある
□ 1回だけ参加したことがある 参加したことがない
□ 不明・無回答

質問25で、選択肢「参加したことがない」にお答えの方にお聞きします。

質問 25-2. あなたが「町内学習懇談会」に参加したことがない理由は何ですか。
主な理由として最も近いものを 1つだけ選び、○をつけてください。



- 「町内学習懇談会」が開かれているのを知らなかつたから
 - 関心がないから
 - 参加しても差別はなくならないと思ったから
 - 参加するまでもなく、よく知っているから
 - 仕事や家事の都合で参加できなかつたから
 - その他
 - 不明・無回答

【ワークシート3・資料3】市民の声から

1. 町内学習懇談会で出された意見

- ・間違っている人に正しく返そうと思うと、正しい知識が必要である。
 - ・思い込みがないか、正しい判断しているか、勉強により確認し続けたい。
 - ・私には年頃の娘がいるが、差別問題について、差別をする人、される人の気持ちになってもっと学習していきたいと思う。
 - ・正しく知ることはなかなかできないので、学習をすることを怠らないようにしたい。
 - ・自分が学生の時に部落問題学習を受けてきたはずだが、記憶に残っていない。おそらく自らが関心をもっていなかったからだと気づいた。
 - ・部落差別が昔から根強く残っていることに驚き、差別について誰かが広めているから残っていることに気づいた。
 - ・昔、学校で部落問題について学んだ時、「差別について教えなければ差別がなくなるのに」と思っていたが、そうではないということを知った。
 - ・無知や無関心でいることが差別につながったり、差別が助長されたりすることもあるので、正しく知ること、そして、気づくことが大切である。
 - ・学習懇談会に参加する前と参加した後とでは差別意識に変化があり、学習会等を継続していく必要がある。
 - ・学習会を実施することで、学びになるところは必ずあるので継続していく必要がある。
 - ・町懇のような人権学習により人権意識が向上してきている。各制度が人権に配慮したものに変化してきていることから、人権学習は今後も必要である。



*上の意見を参考にして、人権学習に行かなくてもいいと思っている人を説得する意見を考えましょう。

【ワークシート3・資料4】

「まだ、こんな差別あるんですか？」と話している方がいた。その時の、となりの人の、複雑な表情が忘れられない。「ハッ」とした出来事のひとつだ。

そのとなりの人が、あなたの「知らない」という部落差別を、今もなお、受けている人なのかもしれない。それなのに、「まだあるんですか？」と聞く。知らないからとは言え、何気ない言葉には、時に人を傷つけてしまうことがある。もし、知っていたら、こんな聞き方はしなかっただろう。

その時わたしは知った。「知らない」ということは、差別をしたことにも、それをあおったことにも「気づけない」ということだ。

たくさんの人と、人権について会話をすることで、自分の中の決めつけや、偏見を知ることができる。いかに自分が勝手に線を引いていたかがわかる。わたしは日々、自分自身に問いかけている。「もしかして分けるかもしれません……」と。

発 行 草津市同和教育推進協議会

事務局 草津市立人権センター 啓発・教育係

〒525-0032 草津市大路2丁目1-35 (キラリエ草津・3階)

TEL 077-563-1765 FAX 077-563-7070